

長泉麗峰山の会・山行報告書		文・斎藤		写真・後藤	
山行番.	NO. 2107				
日 時	2026 年 01 月 31 日（土）晴・微風				
山 域	富士山・小富士（1979m）				
コース	長泉 7:00-須走「道の駅」-周遊道ゲート 8:31-グランドキャニオン入り口 9:13-小富士基部 10:27-三角点 11:12-小富士（昼食） 11:35~54-ゲート 13:29-長泉				
標高差	ゲート約 1180m～小富士約 1979m＝約 800m				
難易度	非常に困難	困難	やや困難	レ普通	やや易しい 易しい
無風快晴、誰もいない静かな東富士					
参加者	後藤、斎藤、村山俊一（静岡安倍っ子山の会）＝3 名				

ゲートは昨年より上だった

長泉発 7:00。道の駅「すばしり」で安倍っ子の M 氏と合流。周遊道は道の駅近くで仮ゲートがあったが、木製車止めを動かして突破。キレイな雪道をゆっくり進むと、本来のゲートが見えて来た。昨年は多雪で車は標高 1100m までだったが、今回は少雪で本来のゲートの標高 1180m まで入れた。

誰も歩いていない、道路に積もる雪はパウダースノー！サラサラで心地よい。別名、アスピリンスノーともいうらしい。



ゲート



グランドキャニオン左岸

グランドキャニオン左岸を上る

小一時間で堰堤だらけのグランドキャニオン（沢）入り口に着く。ここから樹林帯に入り、グラキヤ左岸を上る。踏み入ると思いのほか雪は少ない。このところほとんど雨は降っていないからかな。

天気は快晴。時々、壮麗な富士山が見え隠れする。歩き始めて程なく暑くて体温調整のため上着を脱ぐ。空気は、キーンと冷えているが、風もなく暖かく感じる程穏やか。サクサク落ち葉を踏みしめ、倒木を跨ぎ、グングン上って行く。



富士山とグラキヤ

左下に崖が出現。22年6月、グラキヤの底を歩いた事があった。古（小）富士の地層が表われている場所だと、ブラタモリでいっていた。

私は久しぶりの登山でフウフウいいながら必死でついていく。樹林帯を抜け小富士基部で休憩。寒カラスがガーガー鳴いていた。

ここから、サラサラのスコリアの道を一步一步進む。雪が少なく、せっかく新調したアイゼンは活躍終いだった。

やがて頭上に三角点が見えて来た。見えるが、なかなか着かないものだ。三角点は普通の斜面に岩が積んであった。何故ここが三角点なのか不思議だった。

G氏の話では、「三角点は、あくまで測量がしやすい場所」という。

三角点でちょっと休憩した。水分補給と行動食をパクパク。振り向けば、少しモヤっているが、富士五湖・伊豆・箱根・丹沢・御坂・奥秩父と素晴らしい展望だった。そして、何よりも富士山が間近に迫る。うっすら雲がかかり、見え隠れする姿は厳しく美しい。



お汁粉



三角点

小富士を目指す

ここからもうひと踏ん張り、小富士の祠を目指す。ゼーゼー苦しく足が上がらない。重たい足を必死に動かし男性陣について行く。やっと小富士のケルンが見えてきた。雪はほとんど無かった。小さな祠がやや傾いて静かにそこにあった。

「やっと着いた！お久しぶりです」と手を合わせた。左手に雄大な富士山がそびえ、右手に雪をいただく八ヶ岳が見えた。



小富士上り



昼食



小富士山頂

振り向くと山中湖がキラキラ光っていた。空気はキリッと澄み渡り、風は弱くてもみるみる体が冷えていく。急いで上着を羽織った。30分程で昼食を済ませ、体が冷えないうちに下山する。

花はなく、色のない枯れた森、鳴く鳥もない静かな森。上りは3時間ほど掛かったが、下りは1時間半でサクサク下った。無事に遭難せず車に戻り、富士宮の市長さんに怒られなく済みそうです。お疲れ様でした。